

認知症サポーター養成講座



沼田市の市民協働のまちづくり出前講座を活用させていただき「認知症サポーター養成講座」を法人看護部主催で開催しました。看護部以外の職員も参加していただき、法人全体で300名以上の参加となりました。

参加者から楽しく講座に参加できた。サポーターとして地域に目を向け、積極的に声をかけていきたいとの声が聞かれました。認知症に対する理解を深めサポーターとして活動できるきっかけになった講座でした。

患者会活動紹介

糖尿病の患者会「しのめ会」を紹介します。



立ち上げは30年前になります。発足時からの職員も患者様も少なくなりましたが毎年勉強会や食事会、ウォークラリーへの参加、年1回の総会を開き職員、患者様で交流をしながら楽しく会を継続しています。最近ではワイン工場を見学、血糖値予測ゲームなど楽しみながら糖尿病への理解を深める活動を行っています。毎年忙しい中、時間を作って参加してくれる医師や、糖尿病チームとも連携して活動を支えています。

きらめき トピックス

新病院1周年記念・第4回きらめき祭を終えて

8月28日に新病院1周年記念と第4回きらめき祭、テーマ「きずな・調和・そして未来へ」が開催

されました。来場者アンケートで人気はヒーローショー、ミニ消防車、ぐんまちゃんでした。





利根中央病院だより

第42号
2016年 秋号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4325（直通）
FAX：0278-22-4393
URL：<http://www.tonehoken.or.jp/>



「きずな・調和・そして未来へ」

新病院1周年記念・第4回きらめき祭を終えて

利根中央病院 院長 大塚 隆幸

8月28日（日）に新病院1周年記念・第4回きらめき祭を行いました。私たちを支えていただいている皆様へ感謝を「きずな・調和・そして未来へ」のテーマに込めました。台風の影響で当日の降水確率が50%でしたが、雲が低く垂れこめる中、何とか終日、雨が落ちずに済みました。行政の諸先生方にもご来場いただき、来場者数は目標の2000人を超えました。企画や模擬店などは幅広い年齢層が楽しめるように配慮しました。地元の皆様の企画（野菜販売・バザー、チアリーディング、太鼓演奏、小松姫人形浄瑠璃（初上演）、ミニ消防車、コーラス、絵手紙教室）、医療系の企画（糖尿病教室、医療安全講習会、健康コーナー・介護相談、各科紹介パネル）、子供向けの企画（ヒーローショー、サイエン

スショー、ミニ四駆大会、スライダー、ぐんまちゃんなどご当地キャラ）など、盛りだくさんでした。来場者アンケートでは、ミニ消防車、バザー、野菜販売、糖尿病教室、健康コーナー、太鼓、ミニ四駆などが上位に入りました。

多くの子供たちに来ていただきました。ヒーローショーやスライダーで上がる歓声が会場内にこだましていました。入院されている患者様も車椅子で降りてこられてコーラスやバザー、絵手紙教室などを楽しんでいただきました。天候に恵まれて熱中症や事故などトラブルもなく、無事にきらめき祭を終えることができました。地域の皆様の御協力の賜物と感謝しています。





脳神経外科の取り組み

～上肢痙縮・下肢痙縮に対するボツリヌス治療～

脳神経外科部長 河内 英行

痙縮は、脳血管障害・脳性麻痺・頭部外傷・無酸素脳症・脊髄損傷・多発性硬化症など、さまざまな病態が原因となって発症します。欧米の研究では、脳血管障害の発作3か月後に19%、12か月後に38%の患者において痙縮が認められたと報告されています。痙縮により筋緊張が増加すると、さまざまな四肢の姿勢異常をきたし、表に示したような問題が生じます。

《ボツリヌス治療とは》

ボツリヌス治療とは、ボツリヌス菌により産生されるA型ボツリヌス毒素を有効成分とするボトックス®を痙縮が生じている部位に注射し、筋の緊張を改善させる治療法です。作用は局所的で、効果は2～3日で現れ、3～4カ月持続します。必要に応じて反復投与も可能です。当院では、リハビリテーション科の協力のもと、実際に患者様の最も治療が必要とする部位を精査し、注射施行。その後リハビリテーションを行うことで、効果的な治療が行われています。痙縮でお困りの患者様やご家族の方は、脳神経外科までご連絡ください。

● 上肢痙縮

肩関節の内転・内旋



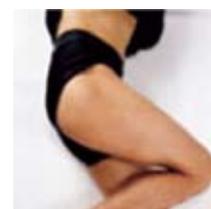
目標に手を伸ばすことができず、更衣や整容、入浴などが制限される。

前腕の回内



手掌の向きをコントロールすることが困難となる

股関節の屈曲



ベッド上の体位が限定される。また車椅子上で座位姿勢を保つことが困難になる。

手関節の屈曲



袖に手を通す際に邪魔になるほか、二次的な手根管症候群を引き起こすことでも知られる。

掌中の母指屈曲



母指と示指や中指との対立つまみが不可能となる

尖足・内反尖足



基底支持面が不十分なため、移動や移乗を妨げる最も大きな要因となる。

肘関節の屈曲



人や物に肘をぶつけやすい。また、上着の着用や目標に手を伸ばす動作が制限される。

● 下肢痙縮

股関節の内転



はさみ肢位を呈する。また、移乗動作や陰部の清潔保持、排尿動作が困難となる

膝観察の屈曲



立位や移乗動作が妨げられたり、高度な場合座位保持が困難となる。

にぎりこぶし状変形



指の爪が手掌にくい込み開けないため、清潔を保つことが困難になる。

膝関節の過伸展



膝が歩行中伸展したままになるため、床に足を引きずらないように患側の骨盤を引き上げて歩行する（分回し歩行）

膝が歩行中伸展したままになるため、床に足を引きずらないように患側の骨盤を引き上げて歩行する（分回し歩行）

母趾過伸展



靴を履くことができないといった問題が生じる。



病棟歯科衛生士の取り組み

歯科衛生士 高橋佐知子

病棟歯科衛生士の業務は、入院患者への口腔ケア、妊婦への歯科指導、糖尿病教室での指導、がん患者への口腔ケア・指導、歯科往診のアシスタント・予約管理、OCT（オーラルケアチーム）となっています。

近年、「口腔ケア」の重要性が注目されています。このケアを行うことにより口腔内が清潔に保たれるため誤嚥性肺炎の予防が期待できると分かってきたからです。特に、高齢者の肺炎は、口腔内の細菌などが誤って肺に入り発症する誤嚥性肺炎の割合が高いといわれています。

当院は、HCUから回復期リハビリテーション病棟までであるため病態は様々です。看護師と歯科衛生士が協力し、その方に必要とされる口腔ケアを心掛けながら診療することで肺炎をはじめ、虫歯や歯周病予防などの取り組みが強化されています。特に、人工呼吸器などを装着している方ですと、口腔内に呼吸の管が留置されるため細菌が増加しやすく合併症が起こるリスクが高くなります。またがん患者の口腔ケアでは、がん化学療法認定看護師や薬剤師と連携し、治療による口内炎などの副作用を最小限に抑えようと奮闘しています。沼田利根歯科医師会にもご協力をいただき、治療前には歯科受診をし、清潔な口腔内でがんの手術や治療に臨むという流れが確立されつつあります。

入院中も専門的な歯科治療が行えるよう利根歯科診療所との連携を強化しています。往診も含め歯科医師が週3回来院しています。入院中に歯科治療が

必要になった際に、これまで以上に迅速に対応する体制が整いました。入院していても歯科診療所と同様に治療が受けられるポータブルユニット（移動式歯科治療機材）も活用中です。より総合的に患者様のサポートが可能となっています。

5月よりOCT（オーラルケアチーム）を発足させ看護師や言語聴覚士との業務連携を行っています。メンバーは歯科医師、言語聴覚士、NST専門療法士、歯科衛生士で構成されています。チームは毎週金曜日に病棟をラウンドします。日々、患者様の口腔ケアを行う看護師に必要な口腔ケアグッズの紹介やケア方法を提案し、口腔ケアの知識と技術の向上を図る活動を行っています。口腔ケアだけでなく、むせや飲み込みの摂食・嚥下面もチェックし、食べることに注目して多方面からのアプローチをできることが強みです。

当院では早期から歯科的視点での介入を行い、退院後も患者様の口の健康と安心して口から食べるために継続的なかわりを行っています。患者様・ご家族様から「長いこと歯科にかかれなかったけれど、入院して歯も見てもらえありがたい」との言葉が聞かれます。病院の歯科衛生士として地域との連携を図り、コーディネーターの役割も担っていければと考えています。

